

対馬材の需要拡大を目指して ～対馬での挑戦～

長崎県 対馬流域森林・林業活性化センター会長 扇 次男
(対馬森林組合代表理事組合長)

1. 課題を取り上げた背景（対馬の紹介、日本で最初の林業公社設立）

・対馬市は、日本海の西に浮かぶ南北約82Km、東西約18Kmの細長い島で、面積約7万1千haのうち、89%が山林であり、また民有林においては、天然林が66%を占めており、この豊富な資源と気候風土により栽培された対馬しいたけが有名です。

地理的特徴として、対馬から福岡まで海路で138Kmですが、韓国の釜山までの距離は49.5Kmと近距離であり、晴れた日には朝鮮半島の山々や建物を望むこともできます。

対馬は、このような地理的条件から、古くより大陸との交流で重要な役割を担ってきました。現在の対馬島の人口37,000人に対して、韓国からの観光客が年間約70,000人来島している国境の島となっています。

・林業公社設立の経緯と施業体系の変移

昭和30年代において、水産業のほかに見るべき産業もなかった対馬では、森林は重要な資源でしたが、経済的価値の高い人工林の割合は、7% (3,400Ha) にすぎませんでした。当時、戦後の荒廃した森林の復旧と、森林資源の造成、及び公益的機能の発揮を目的として、森林施業を代行する組織体として、昭和34年、全国に先駆けて「対馬林業公社」が設立されました。その後、林業公社の造林を中核とし、個人有林においても積極的に造林、育林を推進してきました。

現在、公社の人工林管理面積5,159haのうち多くが主伐期を迎えつつありますが、公益的理由や材価の低迷等により、経営方針を長伐期施業に変更し、利用間伐を主とした施業を進めています。また個人有林も、経済的理由などから林業公社同様、長伐期施業に移行しております。

2. 取り組みの経過（間伐材の利用拡大）

・島内需要の拡大として対馬木材市・島外出荷

専業の木材市場が無い対馬で、間伐材の利用拡大、島内木材需要拡大を目指して、平成10年に対馬森林組合（旧下県郡森林組合）が木材市の開催に取り組み始めました。当初は、年3回程度の不定期市で、1回当たりの木材取扱量は200～300m³程度でしたが、平成12年度の森林組合合併以降は、1回の市で700m³を越すようになりました。しかし、その後島内需要は、利用間伐の増加とは反比例して、年々縮小傾向となり、島内需要量を超えた木材を島外へ売り込む必要が生じてきました。

3. 実行結果（取り組み内容）

・対馬ひのきデザインコンペ作品の東京国際家具見本市出展

対馬ひのきの用途開発とブランド化を図るため、デザインコンペを実施し、平成15年、福岡市博多の家具メーカー（株）アダルにて入選作品の試作品を作成し、「東京国際家

具見本市」に出展しました。

これと並行して、協賛企業（株）アダルが「対馬ひのきの家具」の販売を開始しました。

また、「東京国際家具見本市」の成果から、東京の西川産業（株）が対馬のひのき材を使用したベッドの製作、販売に取り組んでいただくことになりました。

また、対馬ひのき材の販路拡大として福岡県のハウスメーカーに対し、ひのきの柱材・土台材の販売も開始しました。

・素材の島外出荷への取り組み

以上の様々な取り組みにより、製材品や商品開発による島内木材需要の拡大に努めて来ましたが、住宅建築数の減少、公共事業の減により島内木材の消費量拡大が見込めない状況となってきたため、森林整備の推進によって増産される間伐材の販売先として、佐賀県の伊万里木材コンビナートの木材市場を中心に島外出荷をしています。

森林整備を推進し、生産された木材を効率よく島外出荷するため、間伐推進キャラクター「ツシマヤマネコ君」シールによるPRや、地元森林組合において、森林管理水準の向上と木材の付加価値の向上を目的としてSGEC（森林認証）により持続的森林管理を目指しています。かつ、補助金等の利用による間伐作業道開設や、個人有林における利用間伐を拡大するため、対馬森林組合では、平成19年度から、専属の森林施業プランナーを配置して、森林施業集約団地の推進、森林整備の拡大に取り組んでいるところです。

4. 考察（今後の取り組み）

木材の販売コストにおいては、対馬は離島であるがゆえ海上輸送経費が本土地区と比較して、1m³当たり2千円程度多くかかり、さらに、原油価格の高騰により更なる海上運賃の値上げは避けられないところです。また、現在、利用間伐が中心であるため、間伐作業や、出材の時期が9月から3月の間に集中している状況です。

対馬において、森林基幹道が少ないことや、地形的に作業道の開設効率が悪いことなども大きな問題となっております。

その様な中で、解決策として、今後、①引き続き森林整備に必要な作業道開設の推進、②プランニングによる集団化、低コスト化による森林整備の推進、③島外出荷量の拡大、年間を通じた安定生産、採材、選別技能の向上、④国、県、市、公社、森林組合、木材業者の各組織が協力し、安定的な島外出荷システムを構築するなどについて取り組むことで森林整備を推進するとともに、木材生産量の拡大・安定化を図り、将来的に対馬島内に木材流通加工施設が導入出来るか検討していきたいと考えております。



島外出荷積み込み状況（国有林、林業公社、森林組合等の組織により協力・調整）

島外出荷実績

開催年度	出荷回数	出荷材積	売上額	平均単価	備考
平成16年度	3	1043.174	11,131,891	10,671	
平成17年度	7	2951.963	35,772,603	12,118	
平成18年度	16	5306.416	83,809,226	15,793	
平成19年度	15	6585.863	85,579,791	12,994	
計	41	15887.416	216,293,511		

対馬島内木材市での市場開催状況（スギ、ヒノキ）

開催年度	市回数	出荷材積	売上額	平均単価	備考
平成10年度	2	545.103	9,043,272	16,457	
平成11年度	3	942.257	15,160,197	16,507	
平成12年度	3	1496.962	19,812,166	13,910	
平成13年度	3	1422.137	23,389,890	16,384	
平成14年度	4	1519.349	22,757,896	15,144	
平成15年度	5	2331.451	35,942,172	15,416	
平成16年度	4	1614.020	27,070,697	16,772	
平成17年度	3	1000.333	7,350,438	7,347	
平成18年度	3	1109.511	16,376,877	14,760	
平成19年度	1	265.297	3,967,105	14,953	
計	31	12246.420	180,870,710		

対馬島内木材市は、平成10年から平成19年まで、31回開催し、総取扱量12,246m³、取扱高180百万円でした。